

## 取扱説明書

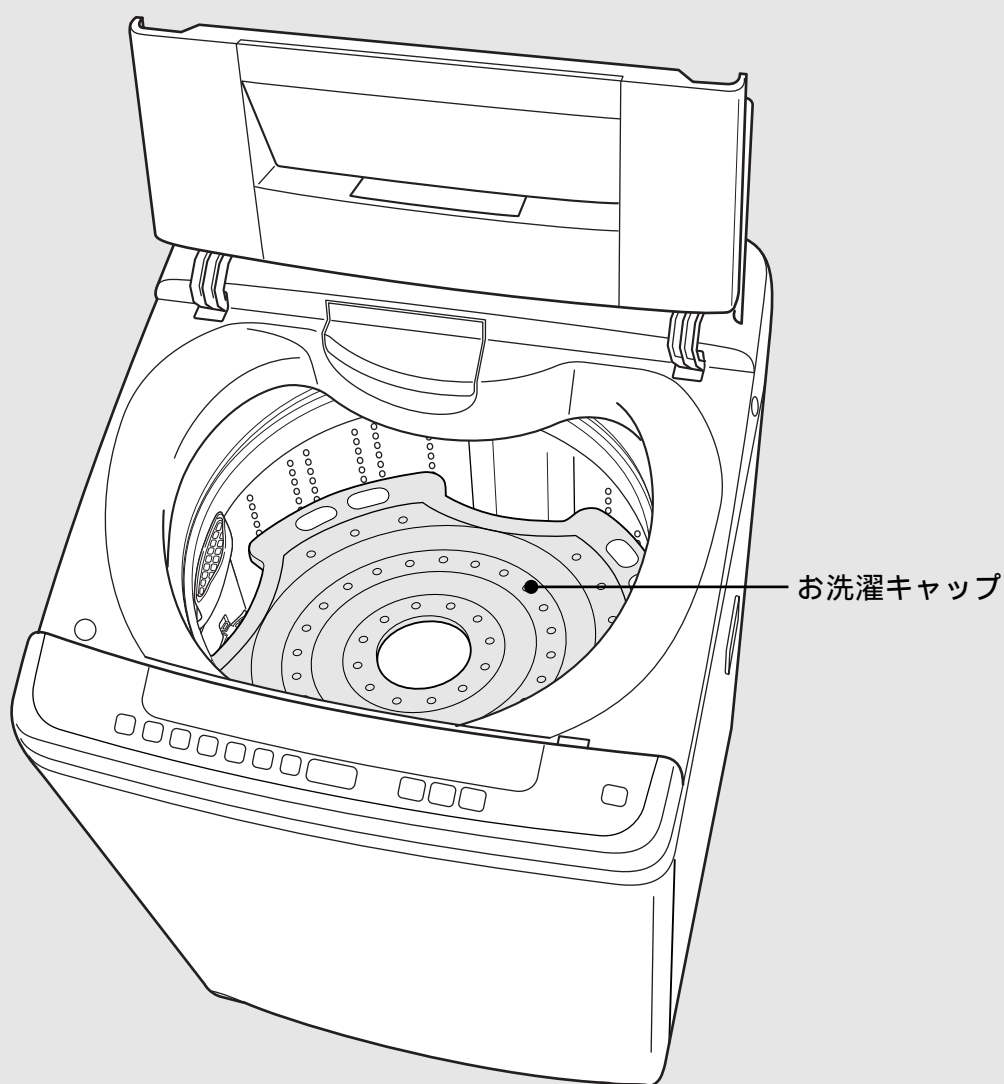
日立電気洗濯機用

# お洗濯キャップ

MO-F92

このたびはお洗濯キャップをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。  
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。

## お洗濯キャップを使って上手にお洗濯！



（この取扱説明書では、BW-8GV形電気洗濯機でご使用になる場合を中心に説明しています。）  
ほかの機種をご使用の場合は、電気洗濯機に付属されている取扱説明書をお読みください。）



# お洗濯キャップの使いかた

## ご注意

- 洗濯の「ドライ」「毛布」コースを利用するときは、お洗濯キャップをご使用ください。  
(お洗濯キャップをご使用しないと、故障の原因となります)
- 洗乾・乾燥の各コースでは、お洗濯キャップを使用しないでください。  
(乾燥の熱でお洗濯キャップが溶けてしまいます)

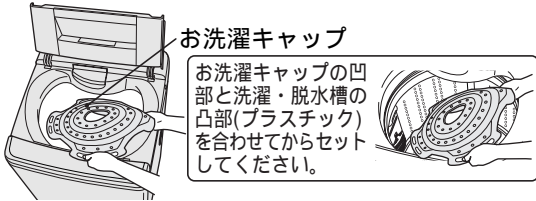
## お洗濯キャップの取り付けかた

### ⚠ 注意

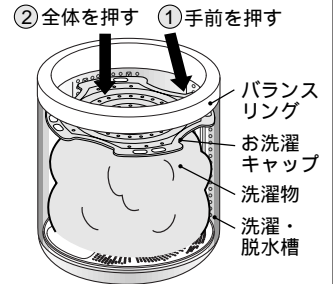


- お洗濯キャップは正しく取り付ける
- お洗濯キャップの飛び出しによりけがをしたり、本体が破損する恐れがあります。  
お洗濯キャップ取り付け時には、洗濯物を本体にはさみ込まない
- 洗濯物を傷めたり、本体を破損する恐れがあります。

1 お洗濯キャップの文字面を上にして、図のように曲げ、奥側を先に洗濯・脱水槽に入れる。



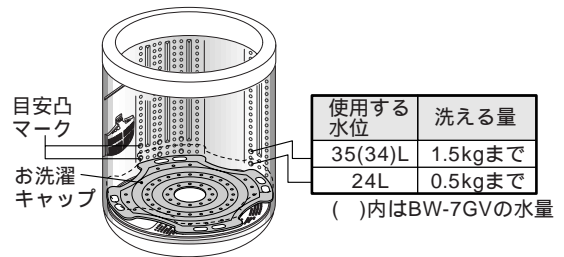
2 ①お洗濯キャップの手前を押して、全体を洗濯・脱水槽の中に入れる。  
②お洗濯キャップ全体を強く下側に押し、水平にする。(バランスリングの下にセットする)



## お洗濯キャップの高さ位置を合わせる

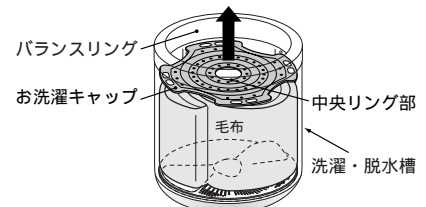
### 「ドライ」コースの場合

- お洗濯キャップをセットする位置の目安(全周に凸部)を設けていますので、凸部の下側にお洗濯キャップをセットしてください。
- ブラウスなど薄手のものを洗う場合は、タオルやほかの洗濯物を入れて、洗濯物の高さを調整し、脱水時に片寄らないようにしてください。



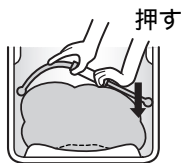
### 「毛布」コースの場合

- お洗濯キャップを洗濯・脱水槽の中に入れ、中央リング部を持って、バランスリングの下まで引き上げます。
- 洗濯物をはさみ込まないように注意してください。



## お洗濯キャップの取り外しかた

1 お洗濯キャップの手前側を押し下げる。



2 中央リング部を図のように持ち、矢印の方向に曲げる。



3 そのまま手前に引くように、持ち上げる。



### ⚠ 注意



禁止

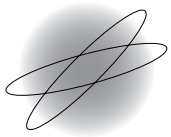
お洗濯キャップは斜めに取り付け  
ない。また、「毛布」「ドライ」  
コース以外では使用しない



- 水の飛びはねやキャップの飛び出しによりけがをしたり、本体が破損する恐れがあります。
- 「毛布」「ドライ」コース以外では、かくはん翼が回るため、お洗濯キャップが外れる恐れがあります。

### お願い

- 「お洗濯キャップ」保管時には変形しないようご注意ください。  
(付属のお湯取ホース掛けを使って、本体脇に引っ掛けると、乾燥時の熱で変形することがあります。)
- 「お洗濯キャップ」は消耗品ですので、破損した場合はお近くの販売店でお買い求めください。



# 液体洗剤・ソフト仕上剤の使いかた

洗濯・脱水槽に規定水位以上の水が入っている状態で、運転開始後に洗剤を追加投入するときは、洗剤は直接洗濯・脱水槽に入れてください。

## 液体洗剤

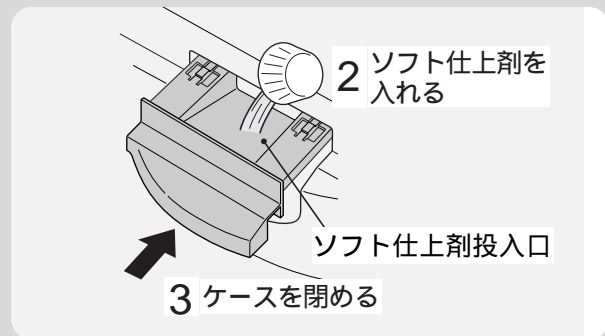
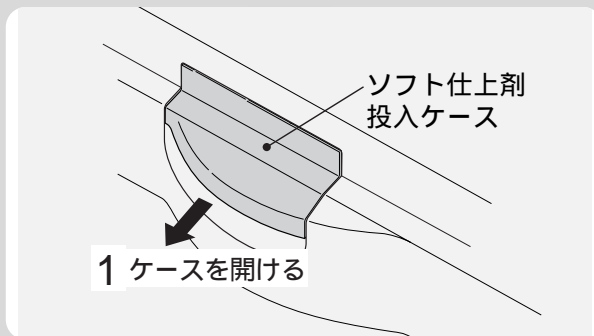
「毛布」「ドライ」コースのとき

洗剤・漂白剤投入口(洗剤トレイ)に入れます。

## ソフト仕上剤

お洗濯の始めにソフト仕上剤投入ケースにソフト仕上剤を入れてください。  
(濃縮タイプは2倍にうすめて入れてください(最大120mL以下))

- 最終すすぎの前に自動投入されます。



- 周りにソフト仕上剤をこぼさないようご注意ください。

### ご注意

- ソフト仕上剤投入ケースには洗剤を入れないように注意してください。(故障の原因になります)
- ソフト仕上剤を入れたまま長時間(12時間以上)放置しないでください。  
固まってしまう場合があります。
- ソフト仕上剤投入口に仕上剤がこびりつくことがあります。  
ソフト仕上剤投入ケースを取り外して清掃するか、本体に付属のトレイ用ヘラでそいでください。
- ソフト仕上剤を入れ過ぎないでください。流れ出して、洗濯物に直接かかり変色する恐れがあります。
- ソフト仕上剤投入ケースは、確実に奥まで閉めてください。  
(ソフト仕上剤投入ケースが開いたままふたを無理に閉めようとすると、破損する恐れがあります)
- ソフト仕上剤の種類や投入量によっては、泡立ちが生じ、ケースを引き出す際にしずくがたれる場合があります。その場合はすぐに拭き取ってください。




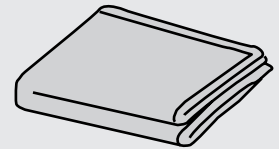
# 「毛布」コース

## お洗濯を始める前の準備



洗濯・脱水槽が回転する「毛布水流」で毛布や掛けふとんに無理な力を加えないで、毛布や掛けふとんをやさしく洗い上げます。

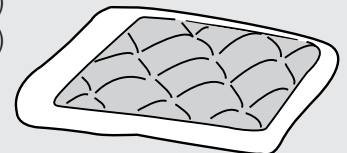
### 洗濯できる毛布

-  と表示されている毛布。
- アクリル、またはポリエステル製のダブルサイズのマイヤー毛布、タフト毛布、織毛布（幅 180cm × 長さ 230cm 以下、1 枚の重さが 4.7kg 以下）
- 電気毛布については、電気毛布の取扱説明書に従って洗濯してください。（乾燥は絶対に行わないでください）



### 洗濯できる掛けふとん



- 中わた材質が化せん（ポリエステル）のふとん  
掛けふとん（シングルサイズ 幅 150cm × 長さ 210cm 以下、中わた質量 1.8kg 以下のもの）  
肌掛けふとん（ダブルサイズ 幅 190cm × 長さ 210cm 以下、中わた質量 1.8kg 以下のもの）
- 中わた材質が羽毛の掛けふとんで 、 表示のあるもの  
（例：肌掛けふとん 中わた質量 0.5kg など）



### ご注意

- 中わた材質が羊毛のものや、カバー材質が絹のものは洗わないでください。

### その他洗濯できるもの

-  表示のベッドパット
-  表示のまくら、クッション（中わたが化せん（ポリエステル）のもの）



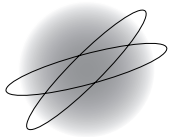
## 毛布・掛けふとんの入れかた（洗乾コースと洗濯コースでは毛布の入れかたが異なります）

- 1 毛布、掛けふとんの角から、洗濯・脱水槽に少しずつ入れます。



- 2 掛けふとんは中わたの空気を追い出すように、少しずつ入れます。

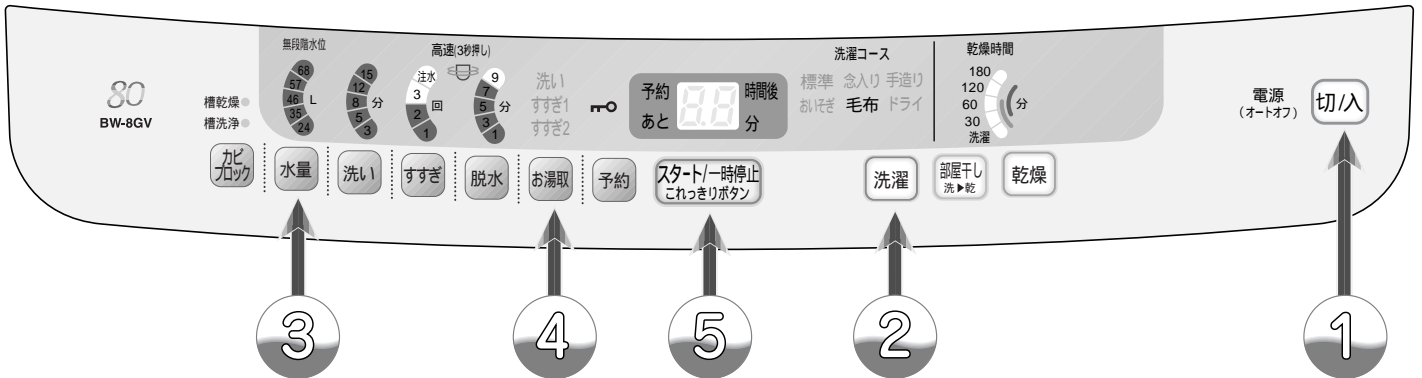




# 「毛布」コース(続き)

## お洗濯のしかた

- 洗濯容量は約4.7kgです。
- お洗濯キャップを使用してください。(洗乾・乾燥コースでは使用しないでください)
- 液体(中性)洗剤を使用してください。



### 準備を行う ➡ 5

- ① 洗濯物を入れ、お洗濯キャップをセットし、電源ボタン **切/入** を押して、電源を入れる
- ② 洗濯ボタン **洗濯** を押して、「毛布」を点灯させる
- ③ 水量 **水量** を設定し、洗剤トレイに液体洗剤、ソフト仕上剤投入ケースにソフト仕上剤を入れ、ふたを閉める
  - お洗濯キャップにより、洗剤トレイが開きにくい場合は、お洗濯キャップを下側に押しながら洗剤を入れてください。
  - 水量は自動的に「68(62)L」になります。洗濯物の量に合わせ「68(62)L」～「24L」まで切り替えられます。( )内はBW-7GVの水量

お湯取をすでに設定しているか、風呂水を利用しないときはお湯取のランプを確認して ⑤ へ

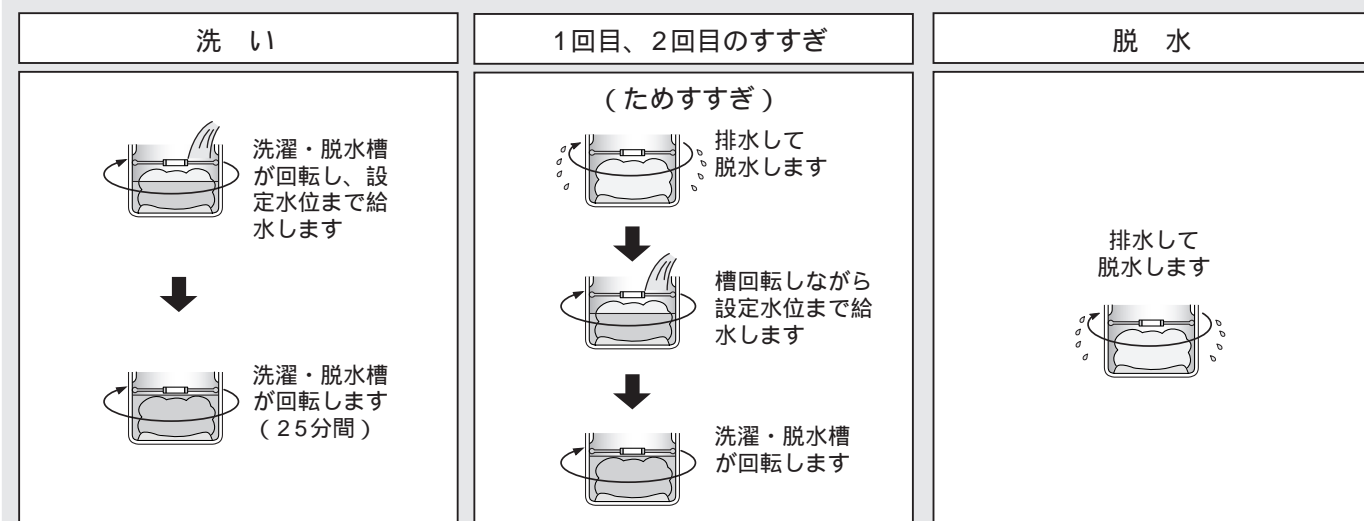
- ④ お湯取ボタン **お湯取** を押して、お好みのお湯取行程を点灯させる

- ⑤ スタートボタン **スタート/一時停止** を押す  
〔メロディ(ブザー)が鳴ってスタートをお知らせします〕

**洗濯運転終了** 〔メロディ(ブザー)でお知らせします〕

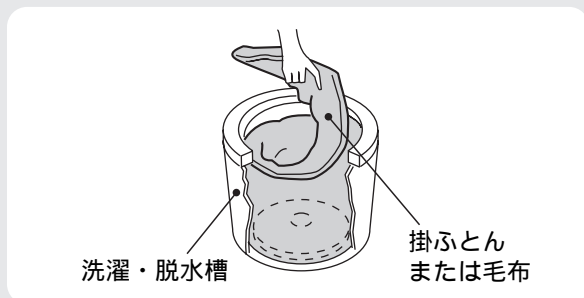
# 掛けふとん・毛布を洗う

## 「毛布」コースの洗濯動作



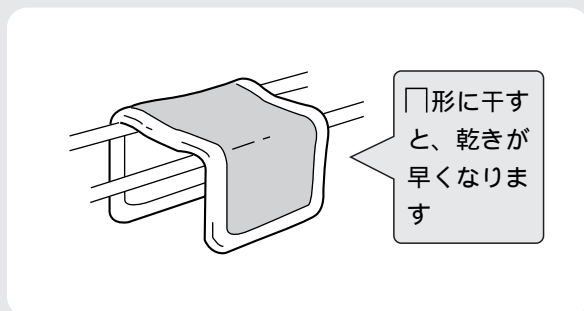
## お洗濯が終わったら

取り出しかた



- 入れたときと逆に少しずつ引き上げます。

風通しのよいところで自然乾燥させます。  
(掛けふとんの場合は、晴天の日で約4時間かかります)



- 掛けふとんは時々裏返すと乾燥がより効果的です。また時々中わたをつまんでほぐすと、ふっくら仕上がります。
- 羽毛の掛けふとんは、中わたの片寄りをほぐしてから干すとふっくら仕上がります。(羽毛の変質と側地の傷みを防ぐため、シーツなどを上に掛けて干してください)
- 毛布は湿っているうちに、ブラシで一方に毛並みをそろえると、きれいに仕上がります。



- 「毛布」コースの予約運転はできません。
- 掛けふとんのえり口など汚れのひどい部分は、あらかじめ液体洗剤などの高濃度の洗剤で汚れを落としてください。





# 「ドライ」コース


## お洗濯を始める前の準備

「ドライ」コースは、かくはん翼を回転させず、洗濯・脱水槽を回す槽回転水流で、表示のデリケートな衣類や、表示のドライマーク衣類をやさしく洗い上げるコースです。

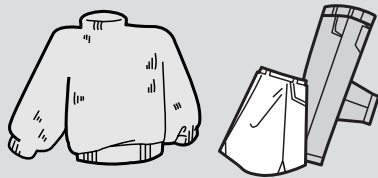
- 素材によっては洗えないものもあります。
- 衣類に力をかけない洗いかたをしますので、脂汚れや泥汚れ、シミなどは前処理をしてください。


## 洗えるもの、洗えないものの確認

### 洗えるもの

衣類の取扱い絵表示  表示があるもの  
または  
 表示があるもの

- セーター、カーディガン(ウール、アンゴラ、カシミアなど)
- スラックス、スカート
- ブラウス、シャツ、ワンピース(絹、麻など)
- 学生服、セラー服



 表示があっても、洗えないものがあります。  
右の「洗えないもの」を参照してください。

### 洗えないもの

- 皮革製品、皮革装飾品
- 装飾物(羽、毛皮など)のついた衣料
- レーヨン、キュプラおよびその混紡品
- 色落ちしやすいもの
- 和服、和装小物
- ネクタイ、スーツ、コート
- コーティング加工、樹脂加工(接着剤を使用したもの)、エンボス加工(凹凸模様)をしたもの
- 絹、ウールなどで強くよじった糸(強撚糸)を使用したもの(特に織り柄)
- ベルベット、コーデュロイなどのパイル地
- 衣類の取扱い絵表示がないもの
- 防水性製品

#### ご注意

● 上記以外の衣類については、衣類の取扱い絵表示や洗剤の表示に従ってください。



# ドライマーク表示の衣類を洗う

## お洗濯物の準備

### 衣類の準備

- しみやひどい汚れは早めに処理してください。時間がたつと落ちにくくなりますので、お洗濯前に部分洗いなどで処理をしておくより効果的です。
- ボタンやしゅうがついている衣類は裏返にします。
- ボタンやファスナーは閉めてください。

### 色落ちの確認

- 色落ちしそうな衣類は、あらかじめ、色落ちの確認をしてください。白いタオルなどに洗剤液を含ませ、衣類の目立たない部分に強く押し当ててタオルに色移りしないか確認してください。色落ちがあった場合は、お洗濯しないでください。
- スカーフ、外国製の衣類は色落ちしやすいので十分に注意してください。

### 脂汚れ、シミなどを落ちやすくする

#### えり、そで口などの脂汚れ

- えり、そで口、すそやポケット回りの汚れは、洗剤の原液をつけて、ブラシで一定方向にこすってください。



#### シミ

- 裏にタオルを当て、洗剤の原液をつけてブラシなどで軽くたたいて落します。



### シミの抜きかたワンポイント

- 1 万一、衣類にシミがついた場合は、「3倍程度の洗濯液でつけおき洗い」をしてください。上記対応でシミが抜けないときは、下記のように市販の漂白剤をご使用ください。
- 2 漂白剤は、酸化型と還元型とに分けられ、さらに酸化型は塩素系と酸素系に分けられます。各々、下記のような特徴があり、使えるものと使えないものがありますので、ご使用前に漂白剤の容器に表示してある注意書きをよくご覧になり、正しくご使用ください。

#### 酸化型

##### (1)塩素系(ハイター)：

漂白力、殺菌力はもっとも強いのですが、色物や毛・絹には使えません。

##### (2)酸素系(ワイドハイター、カラーブライト)：



色・柄物に使えますが、粉末の場合は毛・絹には使えません。

#### 還元型(ハイドロハイター)

水中の鉄分で黄ばんだり、さびがついたりしたときや、塩素系漂白剤のためにワイシャツの襟の芯地が黄変したときに使います。色・柄物には使えません。

## 使用する洗剤について

### 使用する洗剤について

- 衣類の取扱い表示が  表示のものは、ドライマーク衣類専用の洗剤(液体)を使用してください。
-  表示のあるものは、中性洗剤(液体)も使用できます。
- 使用量は洗剤の表示に従ってください。
- 液体洗剤以外は使わないでください。

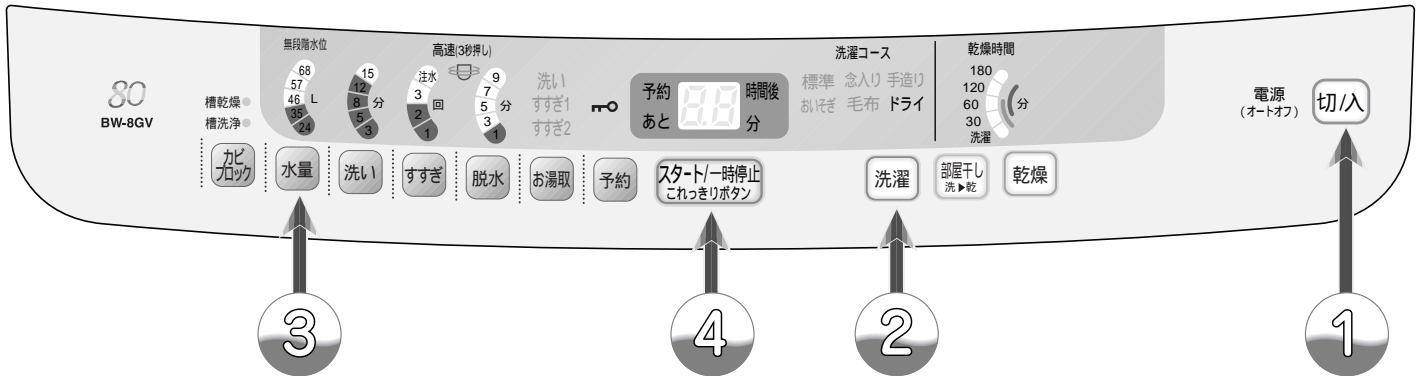
洗濯後、縮みが大きくなった場合のことを考えて、元の形に修正するために型紙を取っておくと便利です。



# 「ドライ」コース(続き)

## お洗濯のしかた

- 洗濯容量は約1.5kgです。
- お洗濯キャップを使用してください。(乾燥コースでは使用しないでください)
- 液体(中性)洗剤を使用してください。
- 風呂水の利用はできません。



### 準備を行う 9

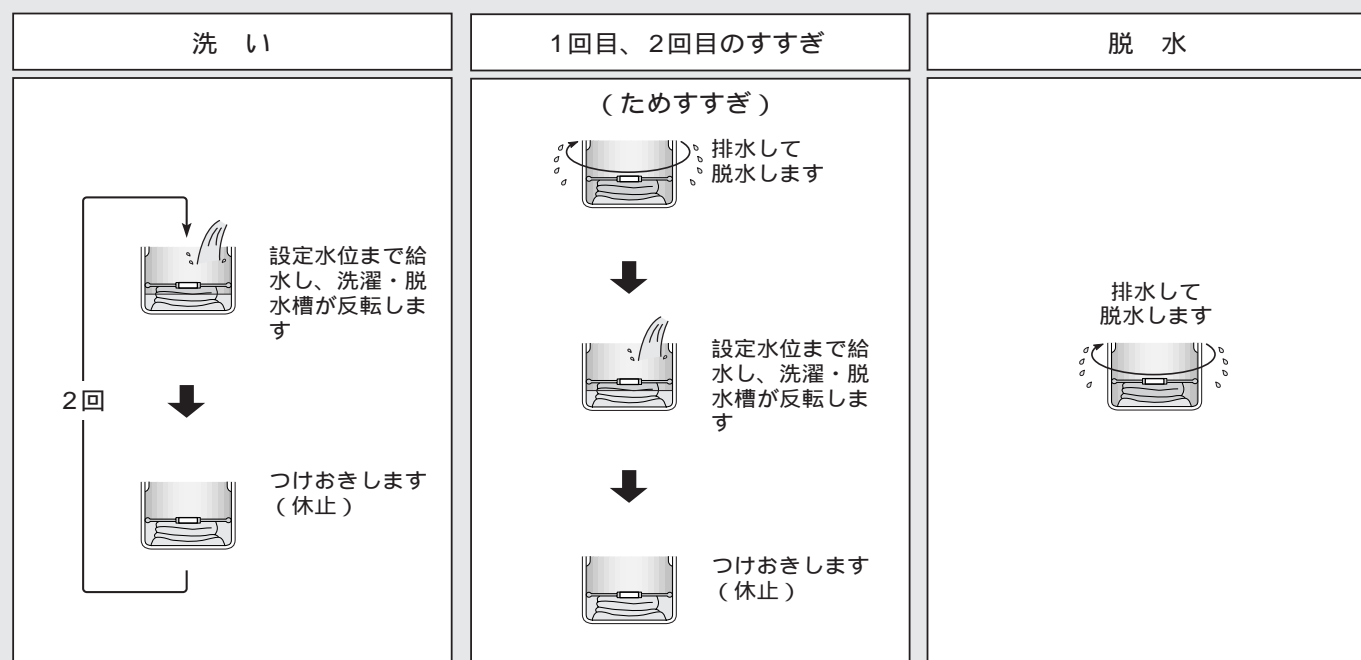
- ① 洗濯物を入れ、お洗濯キャップをセットし、電源ボタン **切/入** を押して、電源を入れる
- ② 洗濯ボタン **洗濯** を押して、「ドライ」を点灯させる
- ③ 水量 **水量** を設定し、洗剤トレイに液体洗剤、ソフト仕上剤投入ケースにソフト仕上剤を入れ、ふたを閉める
- ④ スタートボタン **スタート/一時停止 これっきりボタン** を押す  
〔メロディ(ブザー)が鳴ってスタートをお知らせします〕



**洗濯運転終了** 〔メロディ(ブザー)でお知らせします〕

# ドライマーク表示の衣類を洗う

## 「ドライ」コースの洗濯動作



## お洗濯が終わったら

### 干しかた

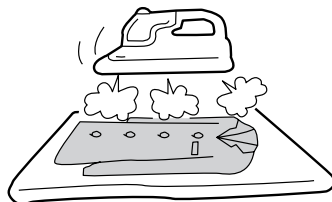
- ウール、アンゴラ、カシミアなどのセーターは、形を整えて日陰で平干しにします。
- 風呂のふたなどを使って平干しにすると形くずれが防げます。



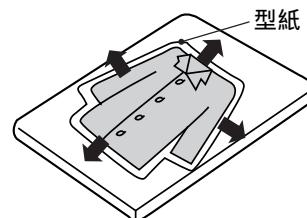
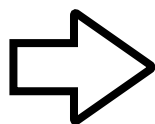
- ブラウスやワンピースは形を整えて日陰でハンガーに干します。

### 仕上げ 縮み、形くずれの直しかた)

- スチームアイロンを軽く浮かせてスチームをかけ、形を整えます。



- スチームをたっぷりあてたあと、型紙に合わせて元の形までのばし、形を整えます。




- 「ドライ」コースの予約運転はできません。
- お湯や風呂の残り湯は使用しないでください。衣類の縮みが大きくなったり、入浴剤の色が移る恐れがあります。水を使用してください。
- 洗剤は適正な量を使用してください。多すぎるとすすぎが不十分になり、衣類を傷める原因になります。

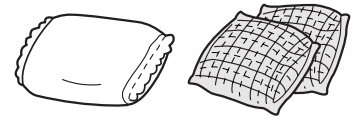
**ご注意** ●「ドライ」コースは、洗濯コースで洗濯できる量(1.5kgまで)と乾燥コースで乾燥できる量(0.4kgまで)が違いますのでご注意ください。



# まくら、クッションを洗う

洗濯できるまくら、クッション

-  表示のまくら、クッション(中わたが化せん(ポリエステル)のもの)



汚れのひどい部分は、液体洗剤を塗布するなどの処理を行ってから洗ってください。

**1** 電源ボタンを「入」にする。

**2** 洗剤を入れる。

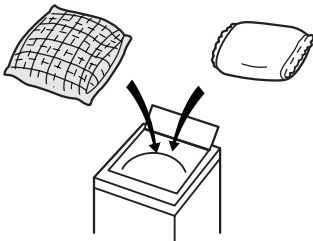
液体洗剤を水でうすめてご使用ください。  
(濃縮タイプ 40mL、一般タイプ 64mL)

- 粉末洗剤は溶けにくいので、使用しないでください。
- ソフト仕上剤を使うと、全体がふっくらと仕上がります。


**3** まくら、クッションを入れる。

## ちょっとアドバイス

- 2個以上を同時に洗うとスムーズに脱水が行えます。
- 1個洗う場合は、安全スイッチが動きやすくなります。脱水時にぬれたバスタオル2～3枚を一緒に入れて脱水します。

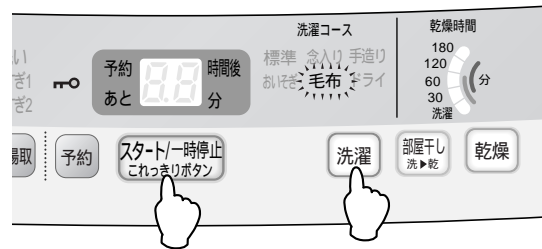


**4** お洗濯キャップをセットする。

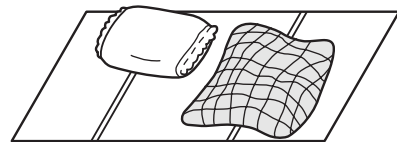
- セットのしかたは「お洗濯キャップの取り付けかた」をご参照ください。  2

**5** 洗濯コースボタンを押し、「毛布」を選んで、スタートボタンを押し。

- スタート後、水量は自動的に一番高い水位になります。



**6** 洗濯が終わったら、まくら、クッションを平干しする。



- ご注意**
- 衣類乾燥機で乾燥しないでください。形くずれの恐れがあります。

 日立アプライアンス株式会社

〒105-8410 東京都港区西新橋2-15-12